

WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA  
CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms  
DRIFT

OKANO  
Express

IGNITION POINT

DiESELAID

FUJITSUBO  
EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会  
MIYATA

voodoo ride



WellVets  
— Animal Wellcare Group —

KDC  
KAWASUMI DENTAL CLINIC

GLOBAL  
GLASS & CERAMIC

SAVANNAH  
タイヤカーボンカブ

TAMACHI

RACING PROJECT  
BANDOH

## 『2度目の P.P 獲得も勝利まであと一步の 2 位を獲得』



シリーズ名 : 2021 AUTOBACS SUPER GT シリーズ

大会名 : 2021 AUTOBACS SUPER GT Round 7 MOTEGI GT 300km RACE

レース距離 : 1周 4.801km×63周 (302.46km)

11月6日(土)

予選 Q1 : 国本選手 6位

予選 Q2 : 宮田選手 1位

□天候 : 晴れ | 路面 : ドライ

11月7日(日)

決勝 2位

□天候 : 晴れ | 路面 : ドライ

予選

秋晴れのツインリンクもてぎで開催される第7戦は、サクセスウエイトが半分となり、19号車も含め各車息を吹き返すがごとの接近した争いが展開されると予想された。

午前中の練習走行では19号車は15番手であったが、1位と2位との差がコンマ5秒あったが、2位から15位までのタイム差がコンマ8秒無い接近したタイムとなり、今季第4戦もてぎにて予選決勝



共に 2 位を取った 19 号車は予選、決勝で表彰台のトップを目指し爆走していく。

Q1 のアタックドライバーは国本選手。Q1 スタートと共に、いち早く 19 号車がコースイン。残り 8 分で半数以上がコースに出て、一気にボルテージが上がる。早めにコースインして他車よりも周回を多く重ねてタイヤに熱を入れた国本選手は残り 2 分を切るあたりでタイムアタックに入り、残り 10 秒で 1:36.933 と暫定 4 位のタイムを出す。他車もタイムアップする中、結果、6 位となり Q1 を突破する事が出来た。

Q1 の結果は 24-17-8-12-16-19-23-39- (以下 Q1 敗退) -14-1-64-37-3-36-38 となります。

Q2 は宮田選手がアタック担当。開始 1 分でコースインしたのは 39 号車で、開始 2 分で 19 号車や 24、17、16 号車と続々とコースインすると、残りの車も追ってコースイン。各車タイムを出していく中、同じヨコハマタイヤを履いた 24 号車が残り 1 分となったところで 1:36.071 を記録し暫定トップを取るが、その直後 24 号車を各セクターで全体ベストを叩き出した宮田選手が Q2 唯一の 35 秒台である 1:35.893 を出し、暫定トップをもぎ取る。

さらにアタックを続けた宮田選手は、19 号車をコースギリギリまで攻め込んだラストアタックは 1/1000 秒届かない 1:35.894 となったが、ほかに 19 号車を上回るタイムを出した車が無く、今季第 2 戦 富士に続き、2 度目のポールポジションを獲得する事となった。

Q2 の結果は、19-24-8-12-16-39-17-23 となりました。決勝はポールポジションからのスタートとなりました。



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTEC

Jms

OKANO Express

IGNITION POINT

DiESELAID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

WOODOO ride



WellVets - Animal Welfare Group -

KDC

GLOBAL COLLECTOR

Qmax fire

TAMACHI

RACING PROJECT BANDOH

## 予選コメント

### 【国本選手】



「1日で一喜一憂して、少し疲れまして（笑）。

朝の公式練習は最後尾の15番手で『これはちょっとマズイな』という雰囲気チームにもあり、ちょっと暗いムードだったのですが。そこから、今回新しく持ち込んだセットアップを見直し、（セットアップを）戻すかたちで予選に臨みました」「Q1は公式練習時から路温も上がり、セット変更もいい方向に向かい、まずまずアタックできました。ただ、自分のなかでは『もう少しうまくまとめられたら』という感じですね。

でも、公式練習の状況から考えれば、Q1を突破できたのはすごくよかったと思います。Q2では宮田選手が完璧なアタックをしてくれました。今年2回目のポールを撮ることができ、すごく嬉しいです」「一番重要になのは明日のレースだと思います。前回のもてぎは2位で悔しい思いをしました。今回はポールからスタートできるので、うまく戦い、この順位を守り切って、必ず優勝したいと思います」

### 【宮田選手】



「今日の公式練習は少し調子悪くて『今回はダメかな』と思っていたのですが、予選Q1で同じヨコハマタイヤユーザーの24号車（リアライズコーポレーション ADVAN GT-R）がトップタイムだったので、もしかしたらチャンスがあるなと思い（気持ち）を切り替えました」

「タイムレベルも僕が乗っているときは公式練習より秒単位で違ったので、僕がアタックするときは別世界でアタックすることになるんだろうと想定し、公式練習の記憶をなくし、予選は新たな気持ちでアタックしに行きました。それがすごくいい方向に働いて、唯一の1分35秒台に入ることができましたし、2周連続でベストタイムも出せました。公式練習で地獄を味わいましたが、こんなに天と地の差を感じるのには本当に驚きです」

「ドライバーとしても努力はしましたし、チームとしても、ヨコハマタイヤさんとしても、この短い間に何をすべきかと、みんなで協力したことがこの結果につながっているので、本当に感謝しております」

「明日の決勝はポールスタートですけど、明日は何が起こるかわからないので。ポールスタートだから100%勝てるということではないので、状況によっては厳しいレースになるだろうし、第4戦のようなトップ争いを演じるほどのパフォーマンスがあるかという、それも明確ではないです。明日に向けて、準備すべきことはたくさんあるので、気を引き締めて、優勝できるように頑張りたいと思います」



【坂東監督】



劇的な一日でした。

エンジニア、メカニック、ドライバーに感謝致します。

横浜ゴムのパフォーマンスを最大限に発揮出来ました。

2017 以来の ADVAN タイヤ装着 1-2 です。

国本選手は午前中の結果から Q1 突破は本当に素晴らしいです。

今季 Q1 突破率は 15 台中トップです。

宮田選手は富士に続き 2 回目の P.P 獲得

もちろん今季 2 度ポールを獲得したドライバーはいません。

素晴らしい若手ドライバーです。とても楽しみなコンビの 2 人と明日、チェッカーに一番近いところからスタートできるので今からワクワクしています。

前は 2 位だったので優勝しか考えてません。期待してください。

決勝

ところどころに雲が見える秋空のツインリンクもてぎで開催される第 7 戦。

昨日の予選では、宮田選手がドライブする Q2 にてポールポジションを獲得。午前中に行われたウォームアップ走行では、最終チェックを兼ねての走行にて 14 番手であったが、今季 2 度目のポールからのスタートにて、表彰台のトップを目指すべく、爆走を誓う。

決勝午前中には 2 機の航空自衛隊 F2 戦闘機のデモフライトがサーキット上空にて行われ、レースに花を添えた。

スターティングドライバーは国本選手。午後 1 時のフォーメーションラップ開始から 2 周経てのスタートは混乱なくスタート。19 号車はトップをキープするものの、スタートダッシュで 2 位以下の順位が大きく入れ替わり、2 位以下の 12, 8, 16 号車からの激しい追撃を受けることとなる。しかし、タイヤが暖まった 2 周目以降、2 位以下を少しずつ引き離しに掛かり、5 周目には 2 位の 12 号車との差が約 1 秒 3 と広がる。

9 周目あたりから 300 クラスに追いつき始め、コース幅が狭いもてぎでの追い越しで 2 番手の 12 号車との差を縮められること無く周回を重ねていく。国本選手はファステストラップ (1'39.998) を記録し爆走していく。





11 周目に FCY が出たが、12 周目にレースが再開される。FCY の影響で 2 位の 12 号車の差が縮まり、13 周目での差はコンマ 8 秒となるが、国本選手は落ち着いて周回を重ねていく。

14 周目に 300 クラス同士の接触に伴う 2 度目の FCY が 15 周目に出る。16 周目に解除されたが、2 位の 12 号車がさらに差を縮めてきて、トップ争いが過熱していく。だが、21 周目に 12 号車にパスされて 2 番手に下がってしまった。さらに、3 番手の 8 号車も背後に迫り、追いついた 300 クラスの処理も含めて、苦戦を強いられることとなるが、24 周目に 1 位の 12 号車と 3 位の 8 号車がピットに入り、19 号車はトップに返り咲いた。

そのまま翌週 24 周目に 19 号車がピットに入り、ドライバーチェンジ、タイヤ交換などを行い、ピットアウトしたが、暫定 6 位の 12 号車の後ろに入り、さらに、アウトラップの S 字で暫定 7 位の 8 号車にパスされて暫定 8 位となった。28 周目で実質トップの 12 号車とは 10 秒の差が付いてしまう（19 号車は実質 3 位）。

31 周目に暫定トップだった 37 号車がピットに入り、32 周での 19 号車の順位は 3 位、トップの 12 号車との差は約 10 秒、2 位の 8 号車とは約 7 秒となる。

44 周目で 19 号車は 2 位との差が 12 秒の 3 位走行。後ろの 16 号車との差は 5 秒。53 周目には、2 位との差が 17 秒、4 位との差が 10 秒と、3 位単独走行となったが残り周回を確認した宮田選手は前との差を縮めるよう、懸命の追い上げでブッシュ開始。最終周、トップの 12 号車がガス欠トラブルによるペースダウンとなると、一気に差を縮めに入り、宮田選手が 19 号車を最後の最後、メインストレートのゴールライン手前で一気に追い越し、2 位表彰台をゲットする事が出来ました。

レースは、ポールの 19 号車が 2 位との差を広げるものの、2 度の FCY を経て 2 位の 12 号車との差が詰まり、21 周目で 12 号車がトップに躍り出る。終盤、2 位の 8 号車が 12 号車に追いつくと最終周まで激しいトップ争いを展開するが、最終周に 12 号車がガス欠トラブルによるペースダウンで順位が入れ替わり、8 号車がトップに躍り出てチェッカーを受けました。2 位は最後のメインストレートで残り 50m で 12 号車を抜いた 19 号車が、3 位が 12 号車となりました。以下 17-16-14-24-36-38-37-39-1-64-3-23 となりました。



WedsSport

YOKOHAMA

SHINKO

OGURA CLUTCH

MIE TOYOPET

NUTECH

Jms

OKANO Express

IGNITION POINT

DIESLAID

FUJITSUBO EXHAUST SYSTEMS

BRIDE

宮田自動車商会

WOODOO RIDE

WellVets  
— Animal Welfare Group —

KEC  
KOHJI KAWA  
1978 CLINIC

GLOBAL  
BURTZ CENTER

Quantum Fire  
タイヤカーボンファイバー

TAMACHI

RACING PROJECT  
BANDOH

諦めること無く前に突き進み、今季 2 度目となる表彰台 2 位をゲットする事が出来ました。最終戦は前回ポールポジションを取った富士です。今回お預けだった表彰台の頂点を目指して爆走していきます。皆様の応援、誠にありがとうございました。

次戦 (Round 8) は 11 月 27 日 28 日静岡県富士スピードウェイにて開催されます。

## 決勝コメント

### 【国本選手】



惜しくも優勝は出来ませんでした。チームと共にベストを尽くし良いレースが出来たと思っています。土日ともに一生懸命走りました。僕が担当したファーストスティントはタイヤのウォームアップなどで心配はありましたが、とりあえず 1 周目は抑えて首位を守り、そこから序盤はクリーンエアの中、自分のペースで走ることができました。その時点では少しずつでも後続を離して行けると思ったんですが、途中 2 回 FCY が入ってしまったことで自分のペースが悪くなり、後続に追いつかれて、スティント後半、12 号車に前に行かれてしまいました。厳しいファーストスティントになってしまいましたが、なんとか僅差の 2 番手でバトンタッチができたので、後半スティントで宮田選手が頑張ってくれました。後半、3 位から最後に 12 号車を抜き 2 位に上がることができ、なんとか今季 2 度目の表彰台がゲットできて良かったです。

### 【宮田選手】



第 2 スティント担当で、結構バトンを受けとった直後から厳しい状況でしたが、後続をなんとか押さえることができ、3 位を走行していた最終周、ガス欠になった前の車に懸命のプッシュで追いついてパスし、2 位になることができました。7 月のもてぎ戦以降苦しいレースが続いていたんですが、今回ポールポジションから 2 位を獲得することができて、ベストを尽くせたと思いますし、TGR、チームやタイヤメーカーの皆さんと一緒に頑張った甲斐があったと思います。最終戦まだ富士が残っているので、再びポールポジションを狙い、今度こそ優勝できるように頑張ります。



【坂東監督】



ポールトゥウインとはいきませんでした  
表彰台を獲得できたのは横浜ゴムさん、スタッフ、ドライバーさんのお陰です。そして沢山の応援をくださったスポンサー様、ファンの皆様ありがとうございました。

10月にテストをしてきました。その成果が表れたと思います。  
FCYが入り国本選手の最後の方は厳しい感じでしたがスタートは気合の入った気持ちの走りを見せてくれました。

莉朋選手は約40周をタイヤマネジメントして最後までプッシュをしてくれました。その結果最後まで諦めない気持ちで2位までマシンを運んでくれました。

ピット作業も速かったです。

勝つのが難しい SUPER GT

存在感は見せれたと思います。得意なサーキットだからこそプレッシャーはあったと思います。

最終戦次第でランキング上位に食い込めるので全力で戦います。

応援ありがとうございました。